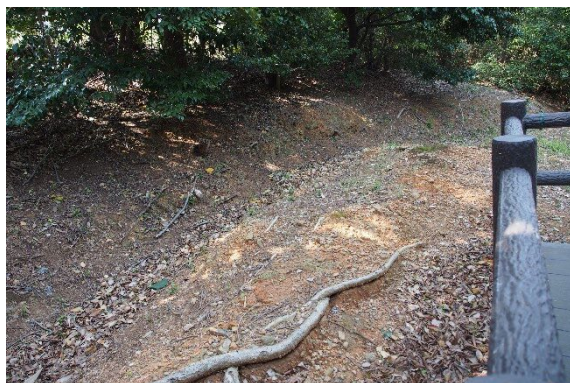
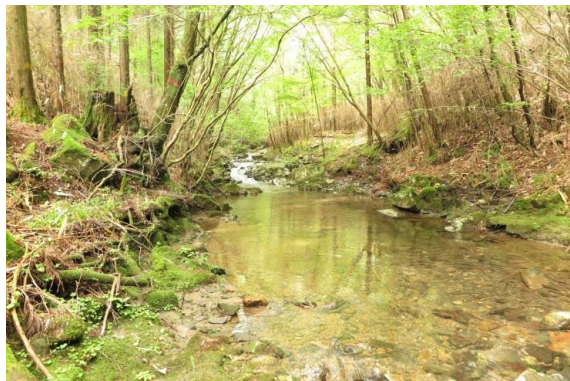


東三河ジオ資源現況調査報告書



発行

東三河ジオ資源活用推進連絡会

編著

東三河ジオ資源活用推進連絡会 作業部会

調査票の凡例及び注釈

ジオサイト	
	「ジオのみどころ（下記参照）」を1〜複数箇所含む、大地の成り立ちと、その地域の自然、歴史、文化などに特色が見られる一定の範囲を「ジオサイト」として、地名などを基に示した
ジオの見どころ	
	ジオは地球や大地を示す言葉で、地形や地質といった地球科学的な現象などを基に、大地の成り立ちについて知ることができる場所を「ジオのみどころ」として、地名などを基に示した
所在地	
	・市町村から記載、番地と大字、字は省略したものを記載（該当地が一箇所でも省略した番地の範囲内の場合）
	・該当地が一定の広さをもつ範囲や、複数箇所が対象の場合は、その範囲を含む最も詳細な住所、又は「〇〇地域」として示した
ジオ資源的価値（AA・A・B）	
AA	地形や地質が既に国、県の天然記念物や名勝、自然環境保全地域等の指定を獲得している
A	地形や地質が市町村の指定を獲得している、又は指定などの評価はないが、今後上記に押す価値があると判断されるもの
B	見どころとしての価値はあるが、価値の判断には調査が必要なもの
理解しやすさ（A・B・C）	
A	中学生レベルの学力で理解可能
B	一般人、高校生レベルの学力で理解可能
C	一般人では理解が難しい、大学の地質系授業レベルの難易度
観光面の価値（A・B・C）	
A	観光を目的とした客がコンスタントに訪れる
B	今後、イチオシスポットなどとテコ入れすれば観光客が見込める
C	マニアや地質に興味をもつ人以外、一般的な観光地としては成り立たない
アプローチ（A・B・C）	
A	現地まで公共交通機関でのアプローチが可能。観光バスが駐車できる駐車場が完備
B	マイクロバスや自家用車数台が駐車できるスペースがある
C	自家用車1〜2台。又はA・Bレベルの駐車場から現地まで徒歩で30分以上かかる
種類（ジオ・エコ・ひと）	
ジオ	（ジオサイト、Geosite）地質・地形のうち地域を特徴付ける地球科学的な事象を保存した典型的な露頭や地形を保全及び活用するための地点を有するもの
エコ	（エコサイト、Ecological site）次に該当する動植物及びその生息地を保全及び活用するための地点のうち、近隣ジオサイト又は対象地点の地質・地形といった地球科学的な事象との関連性が顕著であるもの ①地域特有の動物や植物の生息地 ②特有の産ではないが、地域著名の動物や植物としてその保存を必要とする生息地 ③自然環境における特有の動物や植物又は動物群集や植物群集 ④地域に特有な蓄養動物又は、栽培植物 ⑤絶滅に瀕した動物や植物の自生地
ひと	（カルチュラルサイト、Cultural site）次に該当する文化・産業を保全及び活用するための地点のうち、近隣ジオサイト又は対象地点の地質・地形といった地球科学的な事象との関連性が顕著であるもの ①地域の歴史を象徴する建築物、土木建造物及びその他の工作物 ②地域の特色において顕著な建築物、土木建造物及びその他の工作物 ③地域の特色において顕著な産業及び文化施設
主な活用（観光・教育・保全）	
	見どころの現状において、活用可能な手法として、観光、教育、保全の何れが該当するかを選択し記した

ジオツーリズムへの活用（活用可・活用不可）	
	ジオツーリズムとは大地の成り立ちをストーリーとして楽しむ旅のことで、それにジオの見どころを利用、公開することの可否を示した（何等かの問題を抱えていても、今後の学術的価値や観光面で価値が高い、又は見込まれるものは、活用不可でもこの一票に記載した）
規制法令等	
	現地の保護、保全を目的とする規制に関する主な法令を記載
指定状況	
	上記の法令等に関連した指定状況を記載
保全・整備活動	
	公共団体、地域住民、それらの任意団体を問わず、行われている保全整備活動について記載
活用事例	
	ジオ資源として、観察会や学習の場としての活用や、観光、レジャー、アクティビティでの活用などについても記載
アクセス	
	基本は公共交通機関を利用を想定し、最寄駅からのアクセスを記載しているが、車しか移動手段がない場合は最寄りのIC(インターチェンジ)や、各市町村の役場などからのアクセスを記載
駐車場（有・無）	
	現地まで徒歩で約30分圏内に駐車場がある場合は「有」、駐車場まで30分以上かかる場合は「無」とした
説明看板（有・無）	
	地形や地質、大地の成り立ちなどに関する看板、又は主な内容が生物や歴史、マップなどだが、ジオと関連性がある内容の看板があれば「有」、それ以外は「無」とした
トイレ（有・無）	
	現地周辺、そこから駐車場に至る徒歩圏内（付近公共施設等含む）にトイレがある場合は「有」、無い場合は「無」
公開URL	
	公共機関等が見どころについて公開している主なURL（2026年5月確認分）を示した
見どころ	
	地形や地質の特徴だけでなく、それに関連する生物、歴史、観光などの情報についても示した
現場現況	
	各市町村の調査担当者が把握している現場状況（2020〜2026年）について記載
備考	
	季節的な催事情報や閉鎖期間などアクセスに関わる情報など、ジオと直接的な関連性が薄い情報を記載
図	
現地	見どころの場所や遠景・全景など、現地の様子をページ右上に図1〜2枚で示した
位置	見どころの位置は、「国土地理院発行2.5万分1地形図」、「国土地理院発行5万分1地形図」、「電子地形図25000（国土地理院）」に基づき図で示した
指定	見どころが、国定公園や県立自然公園の指定範囲に該当するかについて、以下の著作物に基づき図で示した「愛知県自然公園情報マップ」愛知県、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示2.1日本
その他	現地にある説明や指定に関する看板、駐車場やトイレ、アクセスに関する看板などの情報を図で示した

ジオサイト	20 豊川流域
ジオのみどころ	46 旗頭山
所在地	豊川市金沢町、新城市八名井境界
地質的価値	AA
理解しやすさ	B
観光面の価値	B
アプローチ	B
種類	ジオ・エコ・ひと
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	愛知県文化財保護条例
指定状況	県指定史跡（旗頭山尾根古墳群）
保全・整備活動	豊川市・新城市から旗頭山尾根古墳群保存会（八名井青年団）に草刈を委託
活用事例	旗頭山尾根古墳群保存会
アクセス	JR飯田線「江島駅」より徒歩40分
駐車場	有（10台、豊川市金沢墓園駐車場）
説明看板	有
トイレ	有
公開URL	文化財ナビ愛知 https://jmapps.ne.jp/aichi_bunkazai/det.htm?data_id=781

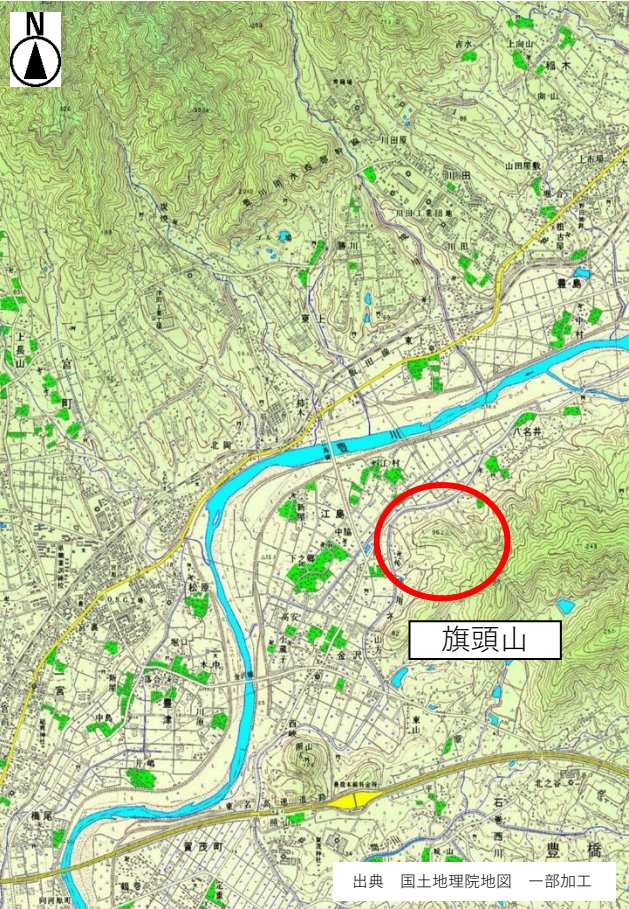


旗頭山遠景



蛇紋岩の露頭

見どころ	旗頭山は吉祥山地の西側に位置し、蛇紋岩（変成かんらん岩）など、三波川変成帯（御荷鉾ユニット）の岩石でできている。豊川を挟んだ北側には、本宮山と、その山麓に連なる「本宮山断層崖」、手前の河岸段丘などが発達している。また、石のみで積み上げる積石塚古墳と土石混合墳からなる「旗頭山尾根古墳群」が尾根沿いに点在し、蛇紋岩地を好む特有の植生が観察できる。
現場現況	旗頭山尾根古墳群はかつて40基が存在したが、現在は24基が残るのみである。また、金沢墓園付近には蛇紋岩の露頭が観察できる。
備考	—



出典 国土地理院地図 一部加工



旗頭山尾根古墳群近景



旗頭山尾根古墳群
※県指定史跡

ジオサイト

20 豊川流域

ジオのみどころ

47 豊川の旧河道

所在地	豊川市東部地域
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	B
アプローチ	B
種類	ジオ
主な活用	教育
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	—
指定状況	—
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	—
駐車場	無
説明看板	無
トイレ	無
公開URL	—

見どころ

豊川（とよかわ）は有史以来その流れを頻繁に変えており、下郷地区では旧河道が観察できる。土筒町・当古町地区では度々起こる洪水へ対処するため建物を石垣の上に構築する水屋建物が造られたが、現在ではその数を減らしている。また、本坂道（姫街道）が豊川を渡る当古村にかつて渡船場が設けられており、「当古の渡し」以外に豊川市内には、行明、天王、三上、向河原の4箇所に渡しがあった。

現場現況

かつては明瞭に観察できた豊川の旧河道も、耕地整理等によりその姿を変えつつある。

備考

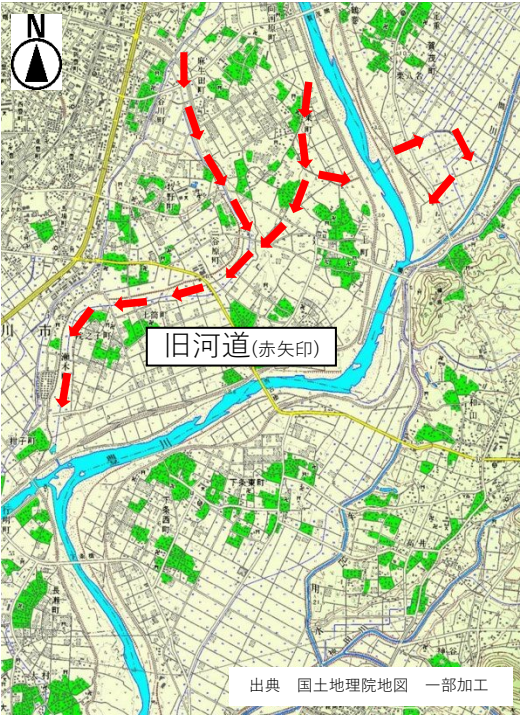
旧河道関連のうち、緑野池や天王池については史料のみで、現存していない。



現在の豊川上空写真（南から）



豊川旧河道（土筒町付近：東から）

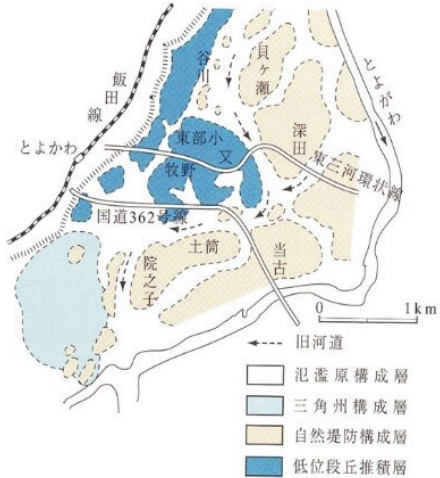


旧河道(赤矢印)

出典 国土地理院地図 一部加工



↑ 楽筒村・楠木村の囲堤大破による被害見取図（1715年）



↑ 豊川の旧河道及び地形模式図



豊川旧河道（橋尾町付近：南から）
※背後は河岸段丘



米軍撮影空中写真（昭和21年）→
※豊川の旧河道がよくわかる

ジオサイト

20 豊川流域

ジオのみどころ

48 牧野城跡

所在地	豊川市牧野町
地質的価値	A
理解しやすさ	B
観光面の価値	B
アプローチ	C
種類	ひと
主な活用	教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	豊川市文化財保護条例
指定状況	市指定史跡
保全・整備活動	市が年数回の草刈作業を委託している。
活用事例	ー
アクセス	JR飯田線「豊川駅」より徒歩20分、名鉄豊川線「豊川稲荷駅」より徒歩20分
駐車場	無
説明看板	有（史跡）
トイレ	無
公開URL	

見どころ	応永年間（1394～1428年）に田内（田口）伝蔵左衛門成富が、四国の讃岐から当地に移り、築城したのが始まりとされる。平成5年度に大規模な発掘調査が行われ、その結果、城の規模は南北約102m、東西は北辺で72m、南辺で84mと判明した。現在は市指定史跡として、城跡の一部が保存されている。
現場現況	市指定史跡部分は土塁が良く残っているが、他の部分は県営は場整備事業で滅失。付近には、牧野氏讃岐屋敷の門や歴代の墓所が残されている。
備考	豊川市教育委員会が平成4年度に範囲確認調査、平成5年度に本発掘調査を実施。平成6年3月には『牧野城跡―豊川東部第二地区県営は場整備事業に伴う牧野城跡発掘調査報告書』刊行。



現在の牧野城跡※市指定史跡



↑ 牧野城跡の発掘調査風景（平成5年） ↓



牧野城跡の掘発掘調査状況（平成5年）



牧野町に現存する讃岐屋敷の門



歴代牧野氏墓所



牧野城跡の遺物出土状況（平成5年）

ジオサイト	20 豊川流域
ジオのみどころ	49 瀬木城跡
所在地	豊川市瀬木町
地質的価値	A
理解しやすさ	B
観光面の価値	B
アプローチ	C
種類	ひと
主な活用	教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	—
指定状況	—
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	JR飯田線「豊川駅」より徒歩20分、名鉄豊川線「豊川稲荷駅」より徒歩20分
駐車場	無
説明看板	有（史跡）
トイレ	無
公開URL	豊川市観光協会 https://www.Toyokawa-map.net/spot/000287.html



瀬木城跡の遠景



瀬木城跡主郭にある神明社

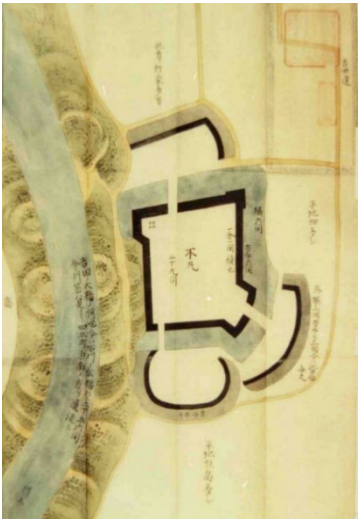
見どころ	瀬木城は、明応2年（1493年）に牧野成時（古白）が、牧野城に次ぐ第二の居城として築城したとされる。同年には一色城主の波多野全慶を灰野塚の戦いで破り、一色城に入城した。城跡を描いた『諸国古城之図』「瀬木城」には、城の東側に豊川が描かれており、防御として当時の豊川が堀の役割を果たしていたことが分かる。
現場現況	主郭や堀、土塁が残され、ある程度当時の姿を残している。
備考	—



出典 国土地理院地図 一部加工



瀬木城跡近景及び説明板



看板

←広島市中央図書館蔵『諸国古城之図』「三河瀬木城」

ジオサイト	20 豊川流域
ジオのみどころ	50 豊川河岸段丘と湧水
所在地	豊川市南部地域
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	B
アプローチ	A
種類	ジオ・ひと
主な活用	教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	—
指定状況	—
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	JR飯田線「豊川駅」より徒歩20分、名鉄豊川線「豊川稲荷駅」より徒歩20分
駐車場	無
説明看板	無
トイレ	無
公開URL	—

見どころ	三明寺は豊川市中心部がある台地の崖下に位置し、この台地に降った雨が地下水となり、通称「宝飯の聖泉」と呼ばれる泉となって三明寺境内に湧き出していた。この水を引いて造られたのが境内中央の影向池で、通称「弁天池」と呼ばれている。なお、河岸段丘下には、かつては連綿と湧水が認められ、生活用水の確保や洗濯場として住民の生活には不可欠なものとして機能していた。
現場現況	かつて豊富な水量を誇った豊川河岸段丘下の湧水も、近年はほとんど枯れている状況にある。
備考	—



出典 国土地理院地図 一部加工



花井町付近の河岸段丘
※手前は沖積低地、背後は本宮山



牛久保町岸組の湧水



←中条の湧水風景
(昭和30年代)



橋尾町付近の河岸段丘
※手前は豊川旧河道



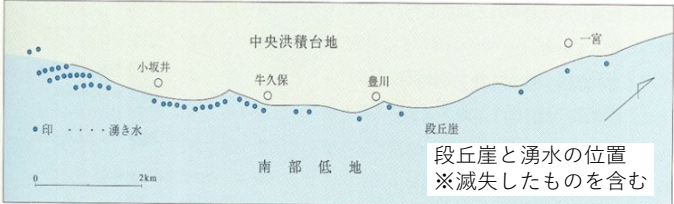
三明寺境内にある
「宝飯の聖泉」



五社稲荷社境内の湧水



篠束町郷中の湧水



ジオサイト	20 豊川流域
ジオのみどころ	51 菟足神社
所在地	豊川市小坂井町宮脇
地質的価値	A
理解しやすさ	B
観光面の価値	A
アプローチ	A
種類	ジオ・ひと
主な活用	観光・教育
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	愛知県文化財保護条例、豊川市文化財保護条例
指定状況	県指定無形民俗文化財（菟足神社の田祭り）、市指定史跡（菟足神社貝塚）、市指定無形民俗文化財（菟足神社の風祭り）など
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	JR飯田線「小坂井駅」より徒歩5分、名鉄名古屋本線「伊奈駅」より徒歩20分
駐車場	有（50台）
説明看板	有（貝塚）
トイレ	有
公開URL	豊川市観光協会 https://www.toyokawa-map.net/spot/000291.html



菟足神社遠景
※河岸段丘上に位置



菟足神社境内にある貝塚

見どころ	古代に遡ると考えられる菟足神社は、穂の国造である菟上足尼命が祀られている。神社周辺は、古代の渡船場である「志香須賀の渡」や、古代東海道の駅家である「渡津駅家」が存在したと考えられ、古代交通の要衝の地である。近隣には東三河最古と推定される「医王寺廃寺」があることなどからも、この地域が三河の古代史を紐解く上で重要な場所であることが分かる。神社境内地周辺には縄文時代の貝塚があり、現在も当時の貝殻が散乱している。
現場状況	菟足神社が立地する場所は、豊川の河岸段丘の南端に位置し、段丘の地形が良く残っている。令和4年度に史跡の一部を史跡公園として整備した。
備考	菟足神社の風祭り：毎年4月第2金・土・日



出典 国土地理院地図 一部加工



菟足神社から沖積低地を臨む



田祭の様子

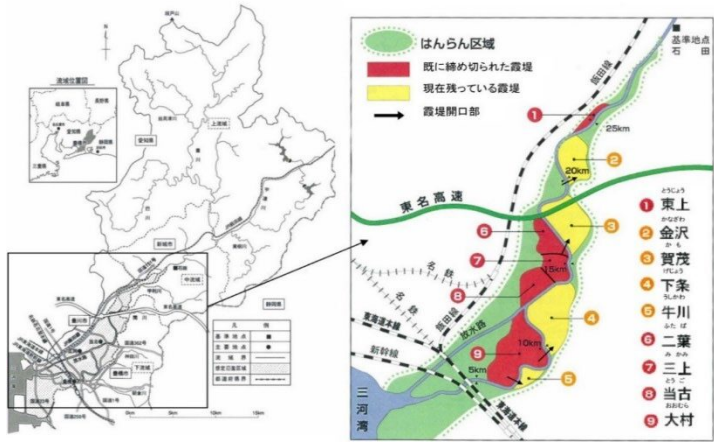


看板

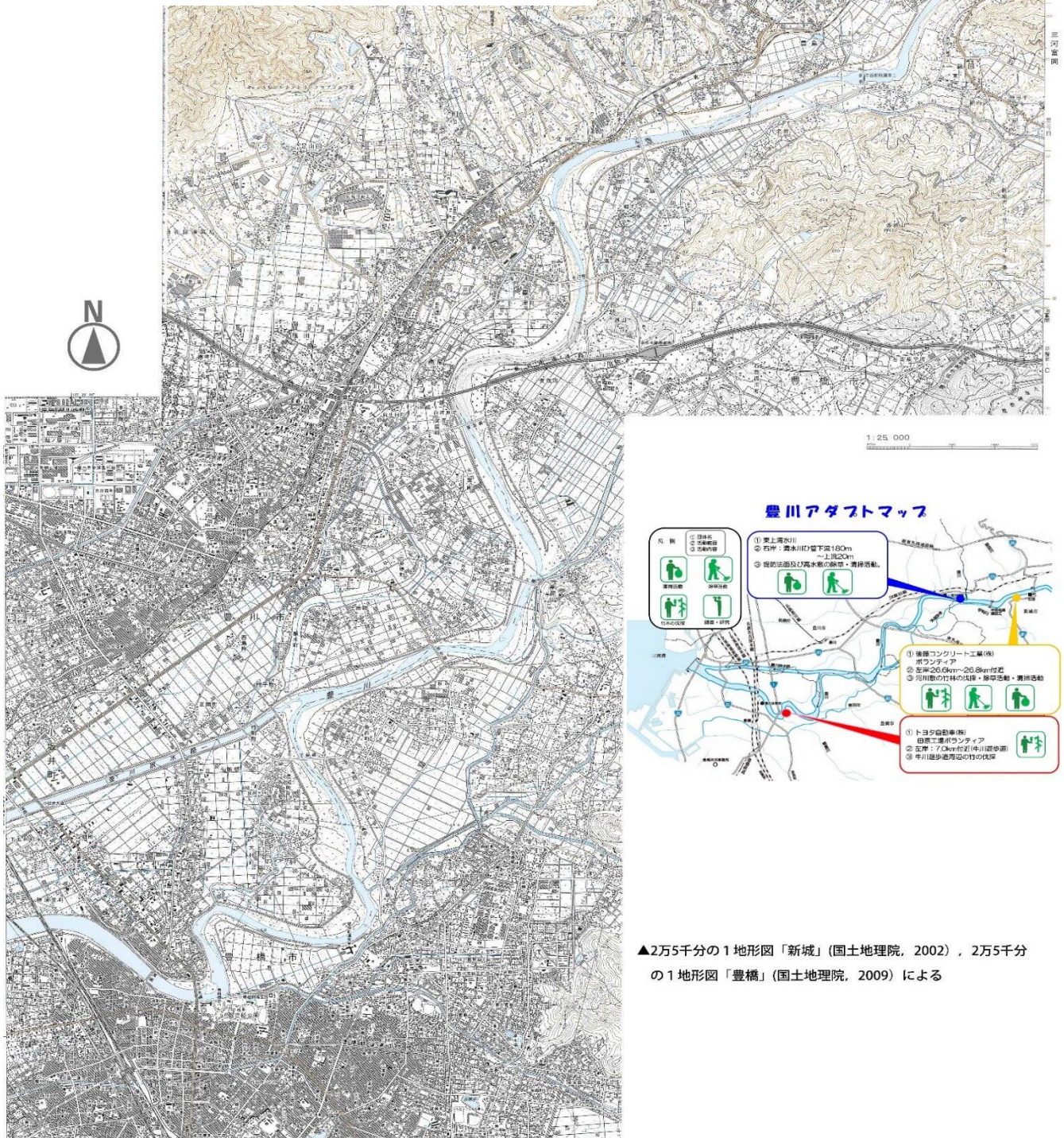


菟足神社

■豊川の霞堤の位置



←「豊川の霞堤」（国土交通省中部整備局豊橋河川事務所、2013）より抜粋、



▲2万5千分の1地形図「新城」（国土地理院，2002），2万5千分の1地形図「豊橋」（国土地理院，2009）による

ジオサイト	21 本宮山
ジオのみどころ	55 本宮山
所在地	豊川市北部地域
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	A
アプローチ	A
種類	ジオ・ひと
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	愛知県立自然公園条例、愛知県文化財保護条例
指定状況	本宮山県立自然公園（第3種特別地域）、県指定天然記念物（砥鹿神社奥宮の社叢）
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	豊川ICより新城方面へ国道151号・301号、県道527号で山頂へ、JR飯田線三河一宮駅より本宮線「ウォーキングセンタ」下車、徒歩約2時間
駐車場	有（山頂に駐車場有、51台・バス1台）
説明看板	無
トイレ	有
公開URL	豊川市観光協会 https://www.toyokawa-map.net/spot/000779.html 三河國一之宮砥鹿神社/奥宮 https://www.togajinja.or.jp/about/#okumiya



本宮山遠景

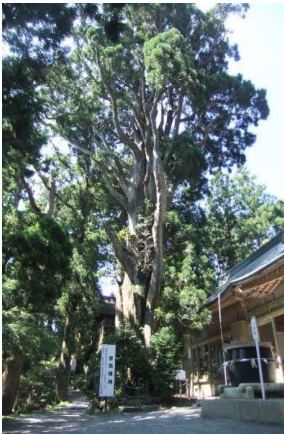


馬の背岩

見どころ	本宮山登山道を登りきると、砥鹿神社奥宮の拝殿前に出る。奥宮周辺には自然林の社叢が広がり、本宮山県立自然公園・県指定天然記念物に指定されている。
現場現況	—
備考	本宮山登山道は、古くから砥鹿神社奥宮への参拝道として人々が行きかう道で、現在では身近なハイキングコースとして多くの人々が登山を楽しんでいる。登山道入口付近には「ウォーキングセンター」が設けられている。毎年1月15日に拝殿で行われる「粥占祭（市指定無形民俗文化財）」は、その年の作物の豊凶を占う神事である。



砥鹿神社奥宮



砥鹿神社の社叢



山姥の足跡



日月岩



荒羽々気神社



1/15に砥鹿神社奥宮で行われる「粥占祭」



一之鳥居（登山道入口）



出典 国土地理院地図 一部加工

ジオサイト

21 本宮山

ジオのみどころ

56 本宮山南東麓の扇状地地形

所在地	豊川市上長山町、東上町
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	A
アプローチ	A
種類	ジオ
主な活用	教育
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	—
指定状況	—
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	JR飯田線「長山駅」より徒歩30分
駐車場	有（「本宮の湯」、「手取山公園」の駐車場）
説明看板	無
トイレ	無
公開URL	—

見どころ

本宮山山麓（豊川右岸台地）には、新旧の支流性扇状地堆積物が分布している。ここでは第四紀の旧期扇状地堆積物からなる地層を観察することができる。クサリ礫の目立つ角レキを含む不淘汰の堆積物で、表層には赤～茶褐色の土壌が見られる。本宮山は、豊川市、新城市、岡崎市の境界となる標高789mの山で、花崗岩類と中生代ジュラ紀の付加帯が低圧・高温の変成作用を受けた変成珪質岩や片麻岩などからなり、地質百選Ⅱにも選ばれている。また、山全体が三河一宮「砥鹿神社」の奥宮にあたり、古来より信仰の篤い山である。ここから吉祥山や豊川流域の新規扇状地堆積物などを見ることができる。

現場現況

「本宮の湯」やその裏手にある「手取山公園」からは、本宮山山麓の扇状地地形が観察できる。また、「本宮の湯」北側にある崖でかつては堆積岩由来の領家変成岩類が観察できた。

備考

近くに炭焼古墳群あり



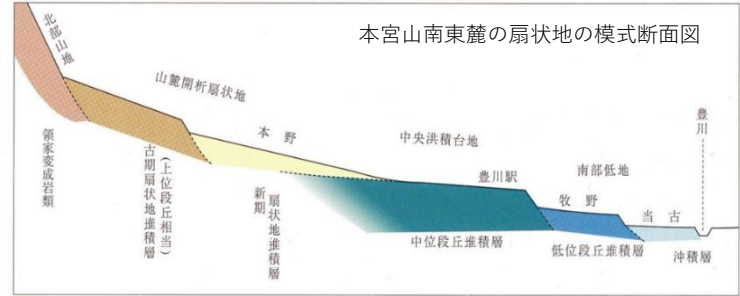
本宮山南東麓の扇状地地形
※旗頭山から本宮山を望む



旧期扇状地堆積物の角礫層露頭

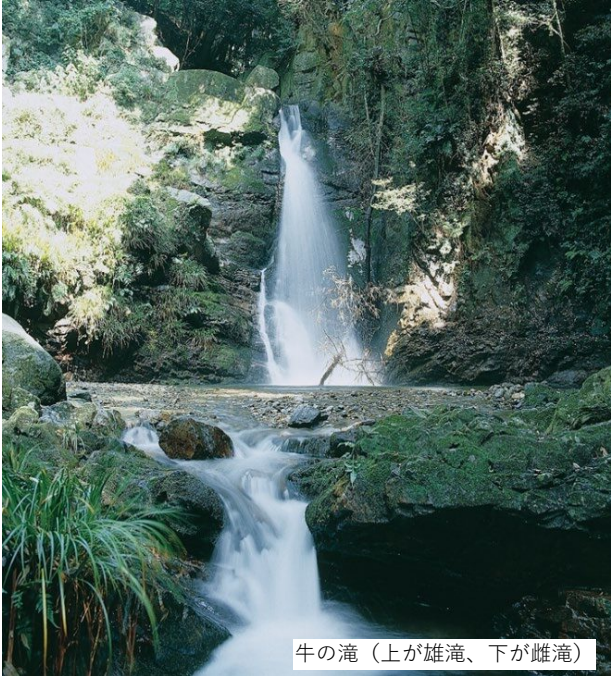


豊川右岸、「本宮の湯」裏山から吉祥山地を望む



手取山公園案内板
※公園から扇状地地形が眺望できる

ジオサイト	21 本宮山
ジオのみどころ	57 牛の滝
所在地	豊川市東上町
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	B
アプローチ	B
種類	ジオ・エコ
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	愛知県立自然公園条例、豊川市文化財保護条例
指定状況	本宮山県立自然公園（普通地域）、市指定名勝
保全・整備活動	豊川市商工観光課が管理保全している。
活用事例	豊川市商工観光課
アクセス	JR飯田線「東上駅」より徒歩20分
駐車場	有（5台）
説明看板	有
トイレ	有
公開URL	豊川市観光協会 https://www.toyokawa-map.net/spot/000793.html



牛の滝（上が雄滝、下が雌滝）

見どころ	牛の滝は、本宮山の南麓、豊川の支流「境川」にかかる、落差10mの「雄滝」と落差4mの「雌滝」の2段からなる滝である。兩岸の集落が水争いの最中に巨大な黄牛が現れ、一夜で滝と牛の形の岩ができたという「黄牛伝説」が残されている。滝の周辺は、年間を通じて多湿でシイなどの天然林やシダ類など、多様な植物が観察できるため、昭和42年（1967年）に豊川市の名勝に指定された。
現場現況	現在は滝つぼ付近には近づけない。
備考	—



雄滝全景



出典 国土地理院地図 一部加工

牛の滝とその付近の自然

この滝は常電滝とも黄牛滝ともいわれ、古くから三河の名勝地として知られています。豊川市と新城市の境を流れる境川が断崖によって生じた崖を落下することにより滝となりました。滝頭には、水流によって削られた円形のくぼみであるポットホールが見られます。高さ10m、幅2m余の雄滝と、その下流の高さ4m、幅4mの雌滝からなります。

滝の周辺は、夏は涼しく冬は暖かく、常に多湿であることからシイ・モチノキなどの暖帯照葉樹が上層を覆い、下層にはツルコウジなどが生え、岩場や崖にはイワヒトデなどの着生シダ類が繁茂し、豊かな自然林を形成しています。

豊川市教育委員会

豊川市指定名勝
昭和四十二年四月一日

TOYOKAWA



看板

ジオサイト

22 本宮山

ジオのみどころ

58 三河国分寺跡・三河国分尼寺跡

所在地	豊川市八幡町
地質的価値	AA
理解しやすさ	B
観光面の価値	A
アプローチ	A
種類	ひと
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	文化財保護法、豊川市史跡公園条例
指定状況	国指定史跡
保全・整備活動	豊川市生涯学習課が管理保全している。
活用事例	市内小学校と連携し、小学6年生は必ず見学に訪れる。
アクセス	名鉄名古屋本線「国府駅」より徒歩25分
駐車場	有（17台、バス3台）
説明看板	有
トイレ	有
公開URL	豊川市観光協会 https://www.toyokawa-map.net/spot/000254.html



三河国分尼寺跡史跡公園全景（南から）

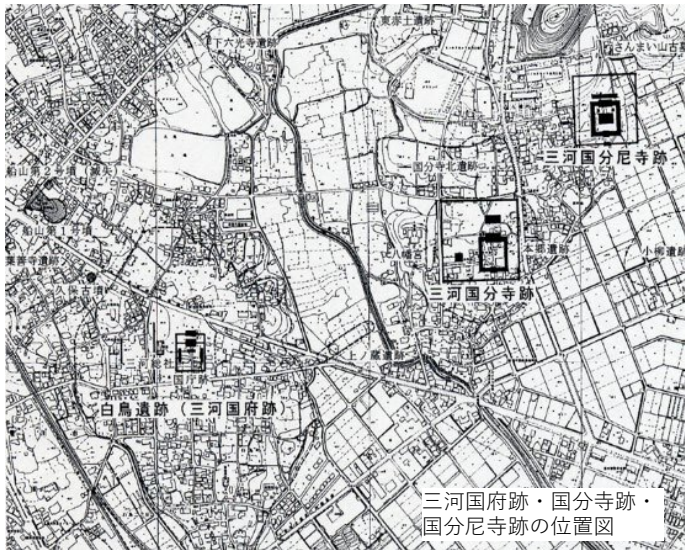
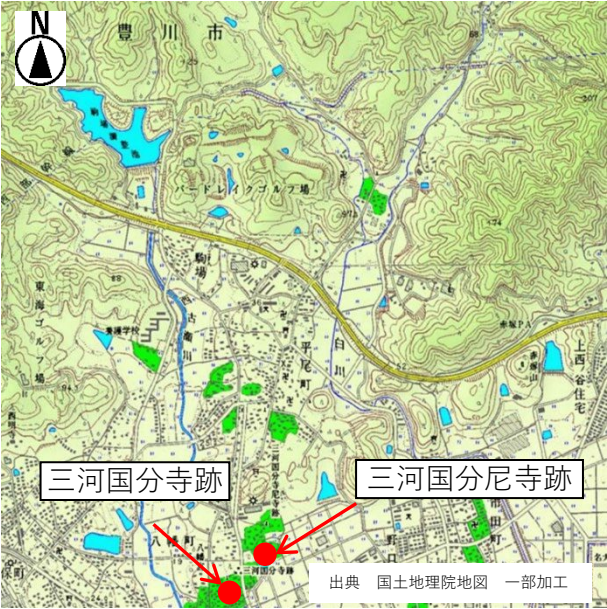


復元された中門・回廊近景

見どころ
発掘調査の成果を基に史跡公園化。平成17年に公園及び資料館が供用開始。現地にはボランティアガイドが常駐し、無料で案内をしている。毎年9月にイベントとして「天平ロマンの夕べ」を開催。礎石等に領家変成岩類を使用、古期扇状地上の立地。

現場現況
史跡公園として整備を完了している。

備考
隣接して「三河天平の里資料館」あり。



三河国府跡・国分寺跡・国分尼寺跡の位置図



史跡公園全景（北東から）



三河天平の里資料館
観覧料：無料
休館日：毎週火曜日、国民の休日の翌日、年末年始



金堂跡調査状況（平成10年）

ジオサイト	22 宮路山
ジオのみどころ	59 宮路山
所在地	豊川市赤坂町
地質的価値	AA
理解しやすさ	A
観光面の価値	A
アプローチ	B
種類	ジオ
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	自然公園法、豊川市文化財保護条例
指定状況	三河湾国定公園（第1種・第3種特別地域）、市指定天然記念物（宮路山コアブラツツジ自生地）
保全・整備活動	宮路どうだんあいご会が下草刈を行っている。
活用事例	地元商工会が紅葉の時期に「宮路もみじまつり」を開催している。
アクセス	名鉄名古屋本線「名電赤坂駅」より徒歩60分
駐車場	有（30台）
説明看板	有
トイレ	有
公開URL	豊川市観光協会 https://www.toyokawa-map.net/spot/000700.html 愛知県観光コンベンション局 https://www.aichi-now.jp/spots/detail/982/



宮路山全景



宮路山のコアブラツツジ自生地

見どころ	宮路山は古くから紅葉の名所として知られ、春秋の行楽シーズンには、ハイキングなどの行楽客でにぎわう。三河湾国定公園の一部でもあり、標高362mの山頂からは、三河湾や東三河平野を眺めることができる。市指定天然記念物となっている「宮路山コアブラツツジ自生地」は秋には見事な紅葉をみせ、春には可憐な白いつぼ型の花をつける。
現場現況	—
備考	旧道2箇所から車で山腹までアクセス可能で、駐車場やトイレが整備されている。山頂へはこの地点から徒歩20分程度。山麓からも徒歩で山頂を目指すこともできる。



宮路山の紅葉



出典 国土地理院地図 一部加工

宮路山コアブラツツジ自生地

昭和五十二年三月一日市指定文化財

宮路山は古くは鎌倉時代の『源平盛衰記』や『十六夜日記』に書かれるなど昔から紅葉の名所として名高い。この紅葉はドウダンツツジ科のコアブラツツジのことである。この木は樹高一〜三メートルの落葉低木で、本州・四国に分布する日本固有種である。四〜六月にツボ形の白い花をつけ、十一月末〜十二月初旬に葉を紅葉させる。

豊川市教育委員会

TOYOKAWA



看板

ジオサイト	22 宮路山
ジオのみどころ	60 御津山
所在地	豊川市御津町広石
地質的価値	A
理解しやすさ	A
観光面の価値	A
アプローチ	A
種類	ジオ・エコ・ひと
主な活用	観光・教育・保全
ジオツーリズムへの活用	活用可
規制法令等	自然公園法、豊川市文化財保護条例
指定状況	三河湾国定公園（第2種特別地域）、市指定天然記念物（御津山のヒメハルゼミの棲息地）
保全・整備活動	—
活用事例	—
アクセス	JR東海道本線「愛知御津駅」より徒歩20分
駐車場	有（20台）
説明看板	有
トイレ	無
公開URL	豊川市観光協会（御津山園地） https://www.toyokawa-map.net/spot/000258.html



御津山遠景



御津山からの眺望

見どころ	一帯は三河湾国定公園に指定されている。山頂には御津山園地があり、展望台からの三河湾の眺めが美しく、桜の名所としても知られる。御津山一帯はヒメハルゼミの棲息地となっており、7月中旬頃の夕方に特色のある鳴き声を響かせる。なお、山頂付近には、戦時中に大恩寺砲台があり、豊川海軍工廠の防備のために高角砲などが置かれた。
現場状況	—
備考	山頂付近には駐車場も整備された御津山遊園地があり、車で山頂までアクセスできる。御津山山麓には大恩寺があり、国指定、県指定の文化財が豊富に残されている。



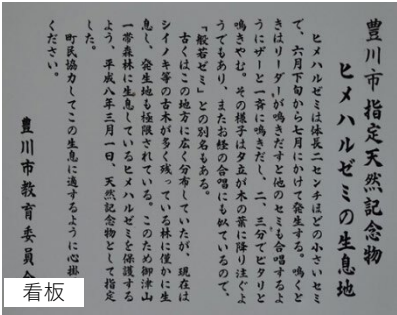
御津山頂にあった高角砲（昭和20年秋）



出典 国土地理院地図 一部加工



御津山のヒメハルゼミ棲息地（大恩寺）



山頂に立つ展望台

表紙写真

【豊根村】 P4 萩太郎山（芝桜まつり）	【設楽町】 P18 鷹ノ巣山（段戸）（豊川源流部）
【東栄町】 P25 蔦の淵（とうえい温泉）	【新城市】 P37 湯谷温泉（馬背岩）
【豊川市】 P49 豊川の旧河道（現在の豊川）	【蒲郡市】 P65 宗徳寺（三河地震による地割れ）
【豊橋市】 P74 葦毛湿原	【田原市】 P91 日出の石門（片浜十三里）

東三河ジオ資源現況 調査報告書

令和8年7月31日 発行
発行 東三河ジオ資源活用推進連絡会
編著 東三河ジオ資源活用推進連絡会 作業部会